

漢法苞徳塾資料	No. 059
区分	治療・鍼法
タイトル	九鍼に関連して
著者	八木素萌
作成日	1993.08.21～22

鍼具	病の所在・他(『靈枢』官鍼第7、九鍼論第78)	『素問』鍼解第54	
1 鑱鍼	病在皮膚(皮毛)無常所者・熱在頭身	取以鑱鍼於病所 膚白勿取	皮
2 員鍼	分肉間・分間之氣	取以員鍼於病所	肉
3 鍤鍼	脈(血脈) 氣少 当補之	取以鍤鍼於井榮分俞	脈
4 鋒鍼	經絡痲痺・五臟痲居・痲疾	取以鋒鍼 瀉於井榮分俞 取以四時	筋
5 鈹鍼	大[癱]膿	取以鈹鍼	骨
6 員利	病痺氣 暴発・癱痺・暴氣	取以員利鍼	調陰陽
7 毫鍼	病痺氣而痛不去・寒熱痛痺	取以毫鍼	益精
8 長鍼	病在中・深邪遠痺	取以長鍼	除風
9 大鍼	病為水腫 不能通關節	取以大鍼	通九竅除三百六十五節氣

漢法苞徳塾の金接触補大鍼(汎用太金鍼)の運用

1. 皮膚鍼(接触鍼)・小児鍼として
2. 毫鍼刺と併用する
3. 温熱鍼(煮鍼)に用う
4. 一部大鍼として
5. 一部員鍼として
6. 一部鋒鍼的に用う
7. 鍤鍼としても用う
8. 一部鑱鍼的に瀉熱・瀉氣・散氣・滑氣に
9. 毫鍼的に井榮俞經合・腧募・郄絡・会穴・四海穴・四街穴・宗穴(四・八)・交会穴など他の枢要な穴に用いて経氣を操作する。